

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年5月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1571600475
法人名	特定非営利活動法人七福神
事業所名	グループホーム七福神
所在地	新潟県妙高市末広町1124番地 (電話) 0255-70-5307

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 3月 17日

【情報提供票より】(19年 12月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	18人 常勤14人、非常勤4人、常勤換算14.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 250 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 50 円	
	または1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (19年 12月現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.7 歳	最低 52 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 けいなん総合病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、新井駅に程近い新興住宅地の一角にある。裏には田んぼが広がり、そのむこうには雪を抱いた山波が見えるのどかな風景が広がり、自然を活かした公園もすぐ近くにある。日頃から散歩にも出かけている。ホームの土地は市有地であり、設立前から市との相談、連携を図ってきた。設立当初より「地域と共に暮す」ことを理念に掲げ、特に町内会とは地区行事への参加、防災訓練での協力などで連携を図っており、地域に根付いた事業所となっている。ホームには理事長が常駐しており、管理者・職員とは密に連携している。職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に、利用者自身の行動をゆっくりと待つケアを行っている。利用者一人ひとりに合った役割作りや働きかけも行われており、利用者の表情も明るい。平成20年度には地域住民や家族を対象とした認知症ケアの研修会を開催する計画があり、今後ますますの取り組みが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価では「要改善」はなかった。自己評価等を踏まえてサービス向上への取組がなされていた。「入居者一人ひとりの尊重」について定期的に内部研修を行い、職員全員が共通認識を持つことができた。「職員のストレスの解消」については、職員アンケートを実施し、悩みや意見の吸い上げを行った。また、理事長、管理者が良く職員の話聞いて、きちんと答えを出していることで、かなり緩和されていた。「周辺施設等の理解・協力への働きかけ」では、災害時や行方不明時に速やかに対応できるよう、家族の了解を得て、警察や消防署に利用者の情報提供を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表を職員全員に配り、それらをまとめて調査票を作成した。職員全員で作成したことで、改めて意思統一が図られ、意見交換もなされるなど、サービス評価の意義を充分理解してサービスの振り返りができた。評価を活かしてサービスの見直しをはかり、検討・改善していく姿勢がある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議はほぼ2ヶ月に1回のペースで開催され、利用者代表者、家族代表者、地域の代表者、行政担当者、民生委員が参加し、評価結果、事故事例、行事計画などが話し合われている。そこでの意見をもとに、平成20年度より地域住民、家族を対象とした研修会の開催を計画している。ホームが市有地を借地して建設された経緯もあって、市担当者との連絡・連携は充分に図られており、運営推進会議に必ず出席してもらい、意見や情報を頂いている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月利用料請求を行う際に、担当職員からの手紙を添えるとともに、日頃の様子を掲載した「ホーム便り」を同封している。利用料は極力振込みや引落にせず、現金での直接支払いにしているため、月に1回は家族が来訪する機会が確保されているので、その際に面談を行っている。また、家族にアンケートを行い、家族の意向を把握するよう努めている。終末期のケアについて今後検討方針を決める予定であるなど、アンケート結果を具体的に運営に活かしている。また、口頭での苦情も記録され、しっかりと対応がなされている。ホームとしては、なんでも言いやすい関係をさらに深めていくよう努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、草刈りや地域の防災訓練、行事に参加している。これらの取り組みにより、ホーム・利用者の存在が地域の中で自然に受け入れられている。また、ホームの駐車場を地域の小学生にラジオ体操の場として提供して利用者と共に参加したり、地域の方から畑の作物をいただいたりや良好な交流が行われている。一人で外出された利用者について地域の方から連絡をもらうなど、協力を得られる関係ができています。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々といっしょに」「その人らしく生活する」ことを独自の理念として掲げ、理念に基づいた取り組みを展開している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の提案を受けて理事会で決定したものであり、職員はしっかりと理解している。理事長や管理者が、機会を捉えて利用者や職員に具体的な表現で理念について話をしている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	開設当初から地域との交流を大切にしており、利用者も地域の一人として町内会や賽の神などの行事、草刈りなどに参加していることで、地域への理念の浸透が図られている。また、家族に対しては入居時に説明するほか、広報やお手紙、家族を招いての行事等で話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、草刈りや地域の防災訓練、行事に参加している。これらの取り組みにより、ホーム・利用者の存在が地域の中で自然に受け入れられている。また、ホームの駐車場を地域の小学生にラジオ体操の場として提供して利用者と共に参加したり、地域の方から畑の作物をいただいたりや良好な交流が行われている。一人で外出された利用者について地域の方から連絡をもらうなど、協力を得られる関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を職員全員に配り、それらをまとめて調査票を作成した。職員全員で作成したことで改めて意思統一が図られ、サービスを振り返る意見交換ができた。評価を活かしてサービスの見直しをはかり、検討・改善していく姿勢がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ2ヶ月に1回のペースで開催され、利用者代表者、家族代表者、地域の代表者、行政担当者、民生委員が参加し、評価結果、事故事例、行事計画などが話し合われている。そこでの意見をもとに、平成20年度より地域住民、家族を対象とした研修会の開催を計画している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームが市有地を借用して建設された経緯もあり、開設時から市担当者との連絡、連携は充分に図られている。運営推進会議には必ず出席してもらい、意見や情報を頂いている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する記事をひとつの材料にして研修会を開催した。その際「言葉の虐待をしているかもしれない」と職員から反省点が上がったことから、日々の対応の振りかえりも行っている。今後も定期的に研修を実施していく予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料請求を行う際に、担当職員からの手紙を添えるとともに、日頃の様子を掲載した「ホーム便り」を同封している。利用料は極力振込みや引落にせず、現金での直接支払いにしているため、月に1回は家族が来訪する機会が確保されているので、その際に面談を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを行い、意向を把握するよう努めている。終末期のケアについて今後検討し方針を決める予定であるなど、アンケート結果を具体的に運営に活かしている。また、口頭での苦情も記録され、しっかりと対応がなされている。ホームとしては、なんでも言いやすい関係をさらに深めていくよう努力している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全職員参加の会議を開催して、職員の意見を聞いている。数ヶ月に1回の割合で主任以上の職員で会議を持ち、運営に関する検討を行っている。職員は相談や意見を積極的に発言するように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年間の退職者、異動はなく、利用者との馴染みの関係が築かれている。異動がある場合も必要最小限に留めている。また、日ごろから両ユニット間の応援体制を取るなどしており、ユニット間での異動があっても影響や支障がないようにしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルが整備され、職員の目に付く戸棚に入れて、いつでも確認できるようになっている。マニュアルの見直しは十分ではない。		マニュアルの見直しについては、職員も現状では十分ではないと認識している。ホームや利用者の現状に即したサービス提供ができるよう、定期的・随時にマニュアルの見直しを行なうことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体会議の際には、事例検討も含めて必ず研修を行っている。外部の研修会に参加した職員は全体会議の際に講師となって、学んだことや感想を発表し、他の職員に伝達している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政と事業所との情報交換や勉強会の場として「妙高市介護ネットワーク」が組織され、サービスの種類や特性により専門部会にわかれて交流、研修が行われており、グループホームの専門部会が設けられている。また、他法人・他グループホームと、利用者・職員の相互訪問交流を行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	アンケートをとり、職員の考えていることや悩みを把握している。管理者は職員の相談や疑問にきちんと回答するよう努めている。また理事長がホームに常駐しており、管理者の相談相手となって、管理者の精神的負担の軽減を図っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申請前の見学はいつでも受け付けており、入居前のお試し利用も可能である。入居申請を受けた場合は、本人・家族が納得できるよう相談を受けて話し合いながら、入居に結び付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や山菜料理、昔ながらの言い伝えなどを、職員が利用者に教わっている。また、職員が利用者から労られる場面もある。職員は、利用者を「人生の先輩」として敬意を払い、言葉遣いなどにも注意しながら接している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族から利用者の情報収集を行なう中で、これまでの介護や本人に対する家族の気持ちもくみ取るよう努めている。手紙や面談等で家族との情報共有を行ない、介護計画作成や行事等にも協力してもらい、共に本人を支えあう関係作りを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどこで過ごしたいか、何をしたいかなどを理解するため、表情や言動から読み取ることを大切にしている。個々の職員がそれぞれ把握した小さな変化や利用者の気持ちなどを職員間で話し合い、共有するようにしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを使い、本人の生活歴等の情報を把握し、ケアに活かしている。その方が地域とどのようなつながりがあるか、どのように暮らしてきたかという情報を日々の暮らしに活用するように努めており、馴染みの深い場所を散歩コースに入れるなどの取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回全体会議の際にカンファレンスを行い、ユニット職員全員の意見を元に介護計画を作成している。本人からは普段の会話や様子、情報収集した生活歴などから意向を汲み取り、また、家族には面談時に意向を確認して、プランに活かしている。その方の希望や能力に着目した実効的な計画となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングが行われ、3か月ごとに介護計画の見直しが行われている。家族や親族、職員等がもつ情報や気づきを集め、利用者の実情に合わせ、変化の兆しに対応して見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の各行事への参加、他施設との交流など、利用者のニーズに応じて柔軟に対応している。必要な場合は、ホームの職員が受診の付き添いをしていく。また、理美容院の訪問サービスを利用し、ホームでも散髪ができるようにしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は家族が行っており、その際、主治医宛に手紙で状況を知らせている。受診後は家族から十分な聞き取りを行うと共に、主治医からの連絡を受けている。必要な場合は、ホームの職員が家族とともに受診に付き添うこともある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対しては、現時点でホームでできること・できないことを説明しながら、できるだけ早い段階から話し合いを持っている。ホームで看護師を採用し、今後、重度化に対応したいと考えている。		ホームで実施した家族アンケートで、「看取りまでのケア」の希望が多いことを把握し、対応したいと考えているが、現段階でどうしたらよいかホーム側に迷いがある。ホームでできること・できないことや地域の医療体制等を踏まえて、職員間や関係者で方針や対応について話し合いを進めていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した言葉かけを行っている。食事時の食べこぼし等へのサポートもさりげなく行われていた。居室には内側から鍵がかけられるようになっており、部屋間違いをする利用者もいるので、夜間希望して鍵をかける利用者もおられる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に出かけたい、ドライブに行きたいなどの外出の希望、何を食べたいかの食事の希望等、利用者の希望する生活ができるよう柔軟に対応している。利用者を急かしたり制止するような場面や言葉かけも見られなかった。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者ともに食材の買物に出かけ、新鮮な物を選んで買ってきている。近所からのもらい物などがあるときにはメニューを変更するなど柔軟に対応している。山菜料理など利用者に馴染みの料理を作る際には、利用者が職員を助けてくれる。ゆっくりと食事する利用者のペースを大切に、また、他の方が待たされているといった気持ちにならないよう会話を楽しむなど工夫している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけて利用者の排泄パターンを把握し、日中・夜間を通じて適切な誘導を行っており、オムツを使用している利用者はいない。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間帯に、ほとんど毎日、ほぼ全員の方が入浴している。現在夜間入浴を希望される方はいられないが、希望者がいた場合には対応する準備がある。入浴が嫌いな方には、時間帯を変更したり、誘導の方法を変えるなど対応を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の片付け、掃除、冬囲い、畑仕事、洗濯たたみなど、利用者それぞれが役割を持ち、活躍できる場面作りを行っている。また、他のホームや施設や地域の方々との交流、行事への参加等、日々の暮らしが単調にならないよう楽しみごとの工夫をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良いときは毎日散歩に出かけている。ホーム近くの公園がいつもの散歩コースとなっており、地域の人たちとも触れ合うことができる。食材の買い物は毎日行ない、利用者が直接食材を手に取り旬の物を見たりする機会となっている。		

外部	自己	項目	(実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという方針を職員間で確認し、何が身体拘束に当たるか、どうすれば拘束のないケアが実現するか、研修を行なっている。過去にやむを得ず拘束にあたる行為を行なった際は、早期に解除することができたが、この経験を無駄にしないという姿勢でケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠していない。外に出てしまう利用者がおられるが、1名の方にはGPSをお守り代わりにつけて頂いたり、地域の方が見守り・連絡してくれることにより、鍵をかけないケアを行なっている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ニアミス(ヒヤリハット)事例はその都度記録され、会議の際に職員全員に周知されている。また、手すりやトイレの高さを利用者に合わせてたり、風呂場で滑り止めマットを使用するなど、設備面でも事故防止に取り組んでいる。		事故・ニアミス報告書には初期対応と経過記録のみが記録され、再発防止策やその評価が記入されていない。再発防止策やその評価等も記録し、今後の事故予防に活用することが期待される。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	消防署の救急救命士による研修を全職員が受けている。急変や事故発生時など、不測の事態が発生した際のマニュアルが整備され、周知もされているが、職員には緊急対応に対する不安が大きい。		職員の不安を軽減し、緊急時に慌てず対応できるよう、今後も、急変時の具体的な状況を想定した訓練を定期的実施してほしい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	毎月、近くの集会所まで避難する訓練を行なっている。毎回、状況の想定を変更し、夜間想定も行なっている。また、町内の防災会組織に加入し、町内の訓練にも参加している。過去の地震の体験から、地域の中で明確な避難体制が作られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの毎日の食事摂取量や水分量を記録し、月1回は体重測定をしている。個々に応じて、食事の内容や摂取方法、形態を工夫している。定期的に管理栄養士から献立のチェックを受けてアドバイスをもらっている。また、管理栄養士から職員に対して栄養指導や制限食の考え方等の講義をしたり、食事を試食して塩分量についてアドバイスを受けていたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間全体に、木の質感と落ち着いた色調で安心して暮らせる雰囲気がある。季節に応じて、利用者の書道やちぎり絵などの作品を展示したり、利用者の写真や季節の花を飾ったりと、居心地のよい空間作りに努めている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具や写真、掛け軸などその人の大切なものを持ってきてもらったり、本人の写真や家族の写真などを壁に飾り、その人らしく落ち着いて過ごせる部屋作りをしている。</p>		